

令和元年度

第1回 柏市生涯学習推進協議会

会議資料

令和元年8月27日

柏市生涯学習推進協議会 委員名簿

※敬称略，五十音順

氏名	職等
あきば なおみ 秋場 奈緒美	公募委員
いけざわ まさこ 池沢 政子	開智国際大学名誉教授
いわぶち ひろみ 岩渕 弘美	「みんなの子育て広場」支援コーディネーター
うえの ひろみ 上野 妃呂美	元柏市立保育園父母の会連合会長
しみず まさふみ 清水 雅文	社会保険労務士 キャリアコンサルタント
すえたけ まゆみ 末武 真由美	千葉県立柏特別支援学校教諭 特別支援教育コーディネーター
たかはし ふみなり 高橋 史成	柏市社会福祉協議会地域福祉課長
つねの まさとし 常野 正紀	多世代交流型コミュニティ実行委員会代表
ないとう まさとし 内藤 正寿	さわやかちば県民プラザ所長
なみき たかき 並木 孝樹	柏市立光ヶ丘小学校長
ねもと としはる 根本 利治	柏市ふるさと協議会連合会長
まきの あつし 牧野 篤	東京大学大学院教授
みよし れいこ 三好 玲子	かしわ子育てまちづくりネットワーク・ ここっと代表

任期：令和元年6月1日（末武委員については、同年8月1日）から令和3年5月31日まで

柏市生涯学習推進協議会 出席職員名簿

所属	職名	氏名
教育委員会	教育長	かわしま ただし 河 鳶 貞
生涯学習部	部長	おぬき しょうぞう 小 貫 省三
生涯学習課	課長	たかむら あきら 高 村 光
	統括リーダー	ふなこし やすなり 船 越 泰成
	統括リーダー	わたなべ まさえ 渡 邊 雅恵
	副主幹	みたがみ としこ 三 田 上 稔子
	副主幹	やまもと さとこ 山 本 郷子
	主事補	たかの あや 高 野 彩
	生涯学習専門 アドバイザー (生涯学習分野)	いしい れいこ 石 井 礼子
	ばば ひでき 馬 場 秀樹	
公民館	副主幹	はしもと としゆき 橋 本 敏之
図書館	館長	はしもと けんいちろう 橋 本 賢一郎

次 第

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 教育長あいさつ
- 4 委員及び職員紹介
- 5 会長，副会長の選出
- 6 生涯学習推進計画の概要説明
- 7 協議事項
生涯学習についての意見交換
- 8 事務連絡
- 9 閉会

目 次

1	生涯学習について	
(1)	生涯学習とは	1
(2)	生涯学習に関する国の方針	1
(3)	生涯学習に対する国民意識	2
2	柏市生涯学習推進計画について	
(1)	柏市生涯学習推進計画	3
(2)	現計画（第3次柏市生涯学習推進計画）	5
(3)	柏市民の意識	6
3	第4次柏市生涯学習推進計画の策定について	
(1)	第4次柏市生涯学習推進計画の策定	8
(2)	柏市生涯学習推進協議会の開催予定	8
4	本日の協議事項について	
(1)	現計画への課題意識	9
(2)	生涯学習についての意見交換	9

1 生涯学習について

(1) 生涯学習とは

国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

(教育基本法第3条「生涯学習の理念」[資料集1ページ](#))

人々が自発的意志に基づいて、「自己の充実」、「生活の向上」、「職業能力の向上」のために、自ら学ぶ内容を選び取り、充実した人生を送ることを目指して生涯にわたって行う学習である。

(「よくわかる生涯学習 改訂版」ミネルヴァ書房より抜粋)

(2) 生涯学習に関する国の方針

方針

生涯学び、活躍できる環境を整える

《目標》

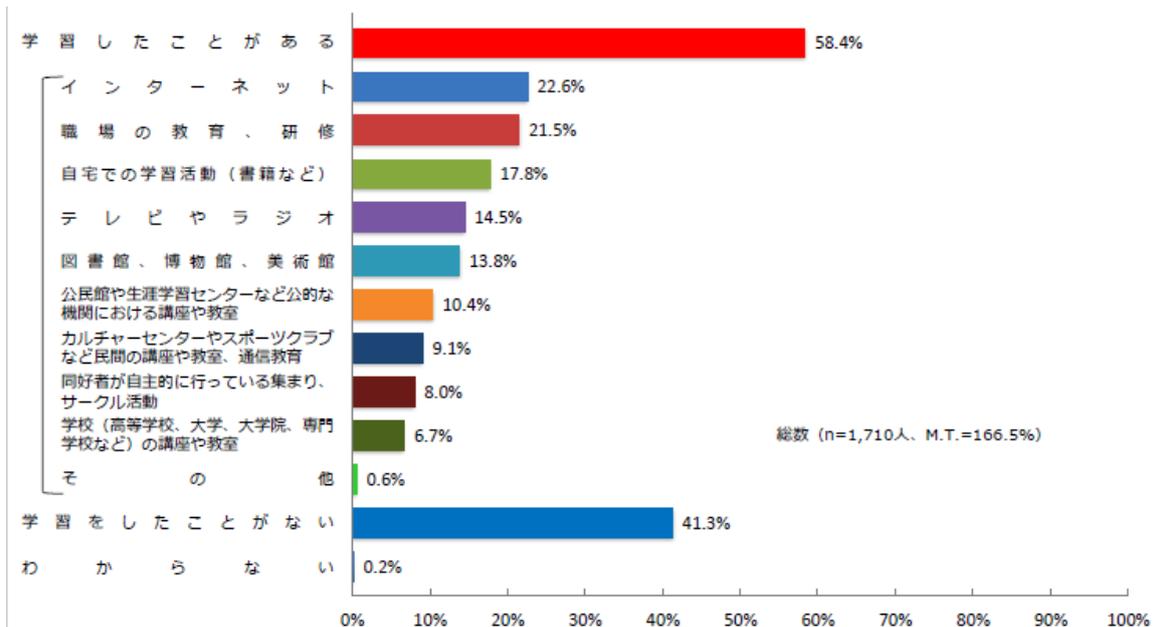
- ①人生100年時代を見据えた生涯学習の推進
- ②人々の暮らしの向上と社会の持続的発展のための学びの推進
- ③職業に必要な知識やスキルを生涯を通じて身に付けるための社会人の学び直しの推進
- ④障害者の生涯学習の推進

(第3期教育振興基本計画(平成30年6月閣議決定)[資料集5ページ](#))

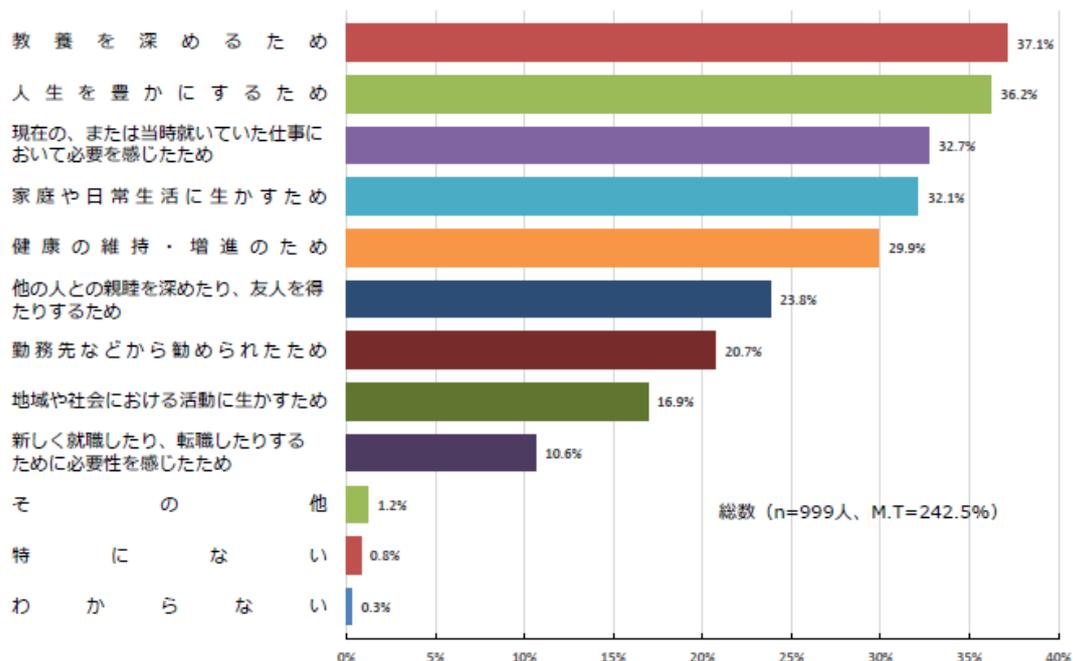
(3) 生涯学習に対する国民意識

【生涯学習に関する世論調査（平成30年7月）から】資料集 17 ページ

ア この1年間位に、どのような場所や形態で学習をしたことがあるか（複数回答）



イ 学習をした理由は何か（複数回答）



2 柏市生涯学習推進計画について

(1) 柏市生涯学習推進計画

① 第1次柏市生涯学習推進計画

(平成5年度～平成12年度)

第1次計画



施策：5～12年度
・地域生涯学習ネットワークの形成を目指す

第1次計画改訂版



施策：10～14年度
・前計画を引継ぎ
・掲載施策の見直し

② 第2次柏市生涯学習推進計画

(平成15年度～平成27年度)

第2次計画



各論：15～19年度
・新たに家庭教育支援を明記
・学習成果発表の場の整備を検討

第2次計画改訂版



各論：21～24年度
・団塊世代等の社会参加，家庭教育支援等ソフト中心
・施設整備は改修へ

第2次計画再改訂版



各論：25～27年度
・現代的課題への学習支援に特化
・目標年次を29年度から27年度へ

③第3次柏市生涯学習推進計画

(平成28年度～平成32年度(2020年度))

第3次計画



施策：28～32年度

- ・生涯学習の推進により自己実現が図られ地域づくりが進展することを目指す
- ・計画, 事例集, 手引書により構成

(2) 現計画（第3次柏市生涯学習推進計画）

目指す生涯学習像

「地域における生涯学習社会の形成」～学びあい 支えあうまち かしわ～

基本方針

市民一人ひとりが自己を高めるために、自分に適した方法で、継続的な学習ができ、その成果を生かして地域社会で自己実現を果たせるまちを目指す

重点化方針

現代的課題に対応した学習支援

重点施策（3本の柱）

- (1) 地域づくりへの参画支援
- (2) 子育て・親育ちの支援
- (3) 生涯学習情報の提供

計画の推進

重点施策に関連した具体的事業を結び付け、実施

評価体制

毎年度、具体的事業により進捗状況を管理し、評価

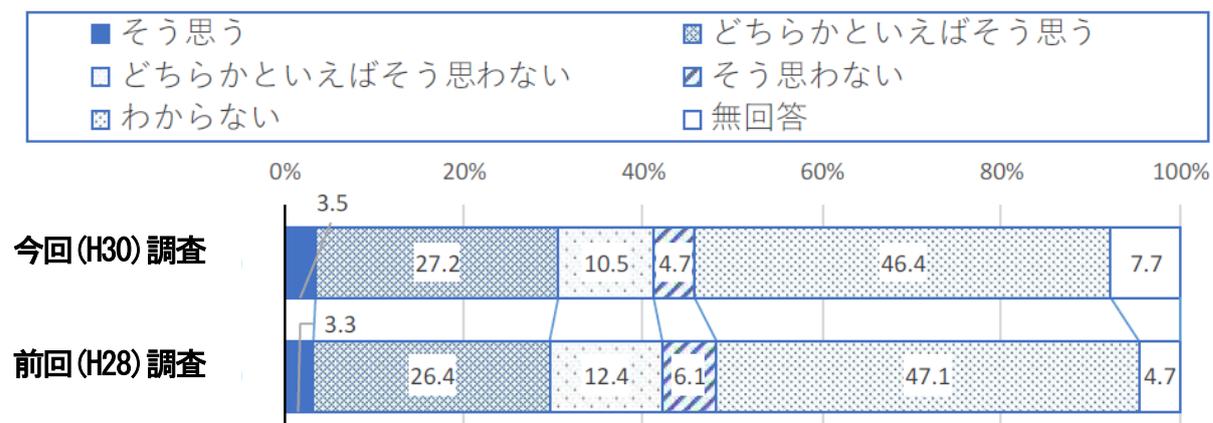
計画の特徴

活用される計画を目指し、活動団体の事例集及び団体設立の手引書を作成

(3) 柏市民の意識

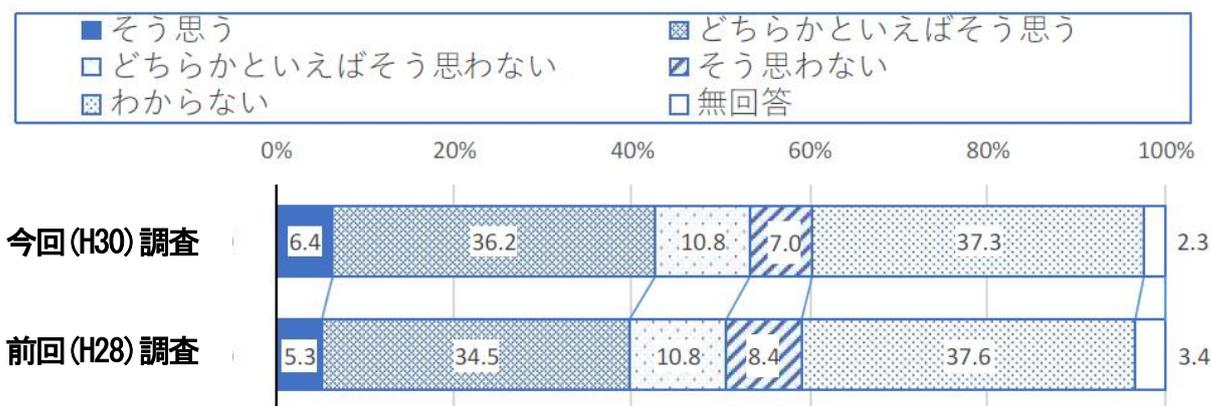
【平成 30 年度柏市まちづくり推進のための調査から】 資料集 42 ページ

ア 柏市の教育環境は充実していると思うか



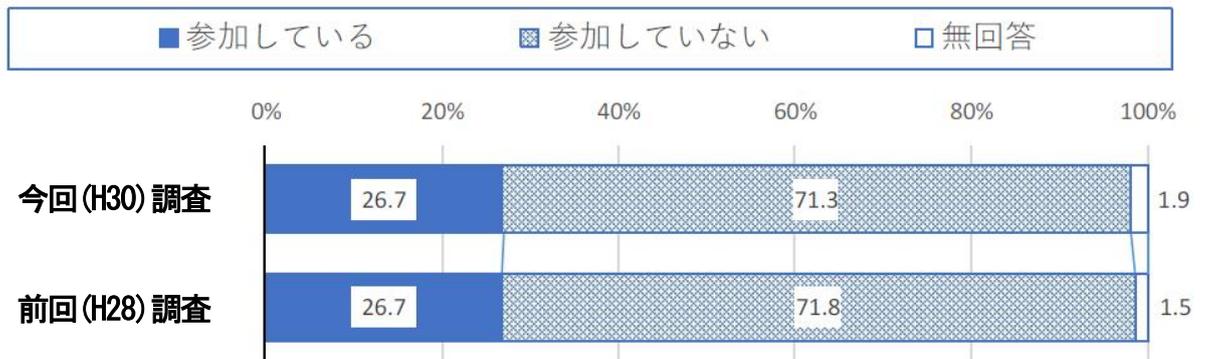
※「わからない」が46.4%で最も高い割合になっている。

イ 柏市は子育てをしやすいまちだと思うか



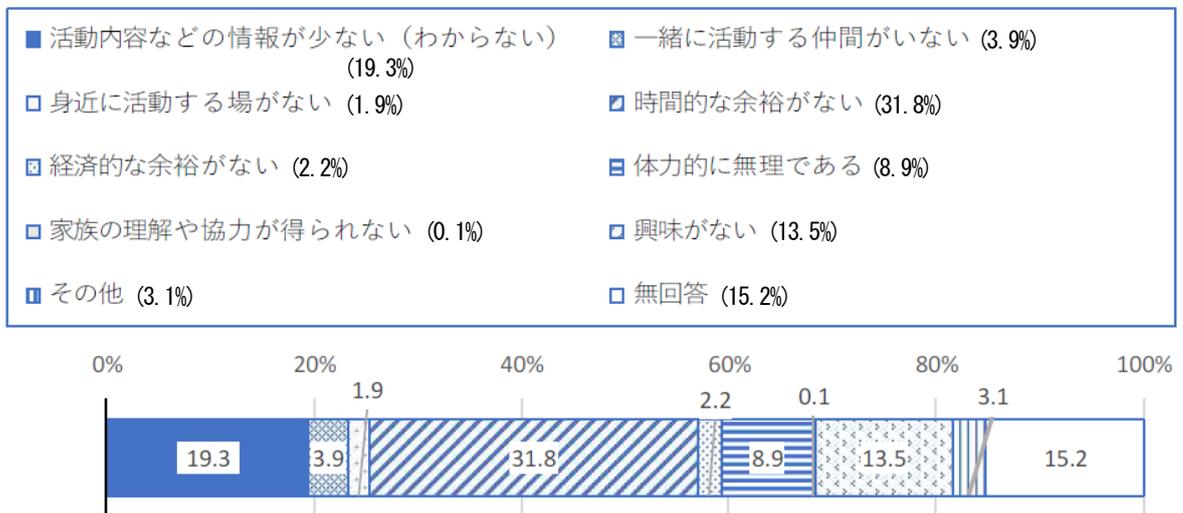
※前回の調査と比べると、「そう思う」が増えて「そう思わない」の割合が減っている。

ウ 町会や自治会などの地域活動やボランティア活動などに参加しているか



※前回の調査と同様に、「参加していない」割合が71.3%と高くなっている。

エ 地域活動・ボランティア活動に参加していない理由



※参加していない理由では、「時間的な余裕がない」が31.8%で最も高く、次いで「活動内容などの情報が少ない (わからない)」が19.3%となっている。

3 第4次柏市生涯学習推進計画の策定について

(1) 第4次柏市生涯学習推進計画の策定

①計画期間：令和3年4月から令和8年3月までの5年間

②根拠法：市町村には、計画策定に係る根拠法令なし。

※都道府県には、地域生涯学習振興基本構想の策定に係る規定あり（生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律第5条）。

③千葉県内各市の計画策定状況

生涯学習に資する計画等を単独で策定	25市
教育全般に関する計画等の中で生涯学習について規定	28市
生涯学習に資する計画等を策定していない	0市

（平成30年度生涯学習・社会教育振興施策に関する基礎資料 [資料集 33 ページ](#)）

④協議会設置：令和元年度⇒計画の方向性を審議

基礎調査（市民アンケート）実施

令和2年度⇒基本方針の決定、計画の策定

⑤取組方針：目まぐるしく変化する社会状況を的確に把握しながら、柏市として取り組むべき地域課題の解決に寄与する計画の策定を目指す。

(2) 柏市生涯学習推進協議会の開催予定

【令和元年度】

第1回（本日）	第4次生涯学習推進計画策定について
第2回（10月下旬）	第4次生涯学習推進計画の方向性について
第3回（1月下旬）	第4次生涯学習推進計画の骨子案作成について 市民アンケート結果報告について

【令和2年度】

第4回（6～7月）	第4次生涯学習推進計画素案作成について
第5回（10～11月）	パブリックコメント（意見公募手続）の原案作成について
第6回（1～2月）	パブリックコメントの結果について 第4次生涯学習推進計画案について

4 本日の議題について

(1) 現計画への課題意識

第3次生涯学習推進計画は、市民に活用される計画を目指すとともに、地域課題を解決する団体の立ち上げ支援や運営支援を重視し、団体活動の事例集及び団体設立の手引書を作成した。

これは、団体設立を視野に活動している市民にとっては画期的なものであり、丁寧な取り組みであったと認識しているが、生涯学習に触れるきっかけを求めている段階の市民、もしくは生涯学習に関わりを持っていながらもそのことを自覚していない市民には、想定どおり活用されていなかった可能性がある。

また、生涯学習は「特定の人向けの限定された活動」というイメージを抱かせ、自分に適した方法により「いつでも だれでも どこでも」学ぶことができるという生涯学習の特徴や魅力を伝えきれていない懸念がある。

一方、市民が社会の様々な課題に向き合うとき、その解決の糧となるのが「学び」であると考えた場合、全ての市民に様々な形で生涯学習の理念を届ける必要があると考える。

(2) 生涯学習についての意見交換

今回のテーマ

生涯学習に関心がない人に対して、生涯学習をするきっかけを作るにはどうしたらよいか

さまざまな場所、時間、方法により、自発的に行う学習が生涯学習です。その学習の機会は、地域、学校、家庭など多岐にわたります。

何を学習するかは自由で、あらゆる範囲に及ぶ学習活動を総じて生涯学習と位置付けています。

また、特に学習という意識がなくても、様々な活動を通して、自分の生き方や考え方に変化を与える体験をすることは、広い意味での生涯学習といえます。

人々が緩やかにつながり、いろいろな活動を楽しみながら地域社会を支えていくしくみを考えると、まずは、生涯学習に関わる人を増やしていくことが必要です。

そこで、「今、生涯学習に関心がない」という人に対して、そのきっかけを作るにはどうしたらよいでしょうか？